



FOA · EAST NEWS No5

1989. 11. 16.

韓国事情

笹田 英次

アメリカンフットボール亜細亜連盟を作って欲しいという韓国からの希望があり、それには先ず両国の交流をと日本協会レベルで理事の相互訪問がきまりました。

その第1弾として、私と事務局の肥後君とで大邱で開かれるコリヤンボウルに合わせてソウル、大邱、釜山と3つの協会のある地域を廻る事が出来ました。

8月25日に成田発ソウル着、韓国協会会長の黄さんの出迎えをうけてホテルへ。市の中心にある古いホテルでしっかりと落ち着いた所でした。その日夕方4時からソウル選抜チームの練習があるという事で郊外の大学のグラウンドに行きました。非常に厳しい監督の元で一生懸命練習をしていました。オールスターチームだけにタイミング合わせに重点をおいていましたが、全体には1軍半位は見えそうな感じでしたし、日本では1部の下位チーム位の感じでした。

その夜は会長と深夜迄、酒を飲みながらの歓談、素晴らしい料亭と料理でした。オリンピック以後のソウルだけあって活気に満ちたものがあり、発展の真っ最中というかんじでした。これからの韓国のパワーを益々感じさせられました。

26日はソウルから大邱に会長と飛行機で行きました。汽車で行けば5時間位で行ける所でしょうか。大邱の飛行場は軍用でありましたので何かと厳しい所がありました。大邱では顔見知りの出迎えを受けました。

そして競技場へ。非常に環境の良い所にあり、大きさも手頃な陸上競技場、中央は人工芝のサッカー場でそれを利用してのゲームでした。観客は少なく一般への告知は未だ未だの様でした。

このゲームはソウル選抜ロイヤルズ対釜山・大邱選抜ファイターズの対戦でこのゲームの勝者は来年5月に関西へ招待されるという事で両チームとも必勝の意気に燃えて居ました。ゲーム開始は午後4時といってもこちらでは未だ日は高く、風のある日でしたので良いコンディションでしたがナイター設備がある訳でもないので一寸心配でした。

ゲーム内容は劣勢と聞かされていたロイヤルズがアメリカの高校で経験のあるQBのセンスにささえられてパスを上手くつないで先手先手と、第3Qの中盤迄

手先をとり、このまゝ逃げきるかと思われたのですが第3Q後半から力強いランプレー中心のファイターズが追いこみ、ロイヤルズの最後の2分の時計の使い方の失敗もあって、残り数秒の所で同点に追いつき、TFPを得意のパワーダイブをしたけれど読まれて失敗延長戦に入りました。やゝ薄暗くなった中でロイヤルズの先攻、持ち前のパスプレーで6点、2ポイントコンバージョンに失敗。その裏ファイターズが得意のランニングプレーで同点TFPをFGでやっと入れてついにピリオドが打たれるという大変良いゲームでした。

	1	2	3	4	延長	合計
ロイヤルズ	8	14	6	6	6	40
ファイターズ	8	6	14	6	7	41

6年前に見た韓国チームよりずっとずっと成長していましたが、ディフェンスには難点がある様に見受けられました。この日の審判は5人制、以前クリニックに出ていたなつかしい人達も入っていて、不安をもちながら見ましたが、大変公平な良い審判をやっていました。未だ勉強する所はありますが、十分に期待できる審判でした。将来に備えて生意気にも勉強する所を言い置いて来ましたが、再会が楽しみです。試合後フィールド脇で選手と一緒に立食パーティ、その後大邱から汽車で釜山に、そのまゝ釜山で役員達と宴会、食べて飲んで話して歌って踊って無礼講の楽しいパーティでした。その夜は釜山泊、次の日10時から今後の韓国の進むべき方向についての討論を約2時間、そしてあわただしく帰国。忙しかったけれど本当に楽しい夢のある韓国訪問でした。今後日本を先達としてついて来るとい韓国です。兄貴分としての日本は自分達のもっているすべてを教え、共に発展して実りある亜細亜連盟を作って行きたいものです。

最後に今度の訪問に際して歓迎して下さった韓国の皆様、途中で一緒になり、わざわざ試合を見にしてくれた横浜国大の斉藤監督、この旅行をアレンジしてくれた私達の仲間の石島君にこの紙面を借りて心から感謝申し上げます。

(ささだ えいじ=日本アメリカンフットボール審判協会理事長)

レーガン大統領とフットボール映画

服部 慎吾

今年（平成元年）1月中旬の朝日新聞のスポーツ面のコラムに次の様な記事が出ていた。

「ブッシュ大統領へのボタンタッチ間近のレーガン米大統領。最後の大事な仕事だった予算教書を議会に提出した後は、リラックスムードでホワイトハウスでの最後の数日間を終えたいようだ。

フィッツウォーター報道担当補佐官の10日の発表によると、大統領は大学フットボールで全米1になったノートルダム大学を招待し、18日にはホワイトハウスで会見する。元スポーツアナウンサーの大統領はこれまで大リーグ、プロフットボールの優勝チームを招いているが、ノートルダム大の場合は特別の意味がある。というのも、“第2の職業”である俳優としてノートルダム大のフットボール選手役を演じたことがあり今でもその役者名の『ギッパー』はニックネームの1つ。またとないはなむけに」と言う記事であった。

レーガン前大統領の年齢、又その当時日本で上映された映画の内容から考へて、この映画は昭和7年頃日本で上映された「驍球大学」と言う映画に間違いのないであろう。

昭和4年頃から昭和12、3年にかけてアメリカでもフットボールの隆盛の時期であったので必然的に映画でも多く取入れたのであろう。従て日本にも秋になるとアメリカから来たニュース映画には必ずフットボールの試合の1トコマが入っていた。又劇映画もフットボールを主題にしたものが日本の映画館で上映された。昭4「青春ジャズ大学」、昭5「スポーツ王国」昭7「驍球大学」、「タッチダウン」、「ご冗談でしょ」、「7万人の目撃者」、昭8「響け応援歌」、昭9「カレッジ・リズム」等である。まだこの他にも多数あったであろう。特に昭和9年以前に上映されたものはまだ日本ではフットボールが行はれていなかったもので当時の若者にはたいへん興味をもって見られており、これが1つには日本にフットボールを移入するキッカケになったのではないかと思はれる程であった。

その「驍球大学」と言う映画はユニバーサル製作で原名は「The Spirit of Notre Dame」で題名そのままのノートルダム大学のフットボールチームのことを書いたものでストーリーは簡単なチームメートの友情の物語りであった。主演は当時の2枚目で「西部戦線異状なし」に主演したリュウ・エアーズで特別出演とし

てノートルダム大学OBでオールアメリカンに選ばれたドン・ミラー（ライン）、ジム・クロウレイ（HB）、エルマー・レイドン（FB）、ハリー・スチュールドレール（QB）等そうそうたるメンバーが出演し、ノートルダム大学でも大変に力を入れたもののものであった。又この映画製作についてゲームの模様の指導に当時ノートルダム大学のヘッドコーチでありノートルダム大学の全盛を築いたヌート・ラクニーが当たる予定で飛行機でハリウッドに向う途中悪天候にあい飛行機が山に衝突して死亡したと云う話である。この映画にレーガン氏が出演していたかどうかはわからないが、色々と総合して判断して見るとこれ以外にはないようである。

日本でつけた「驍球大学」と云う題名もまんざら間違っていなかったのではなかろうか。アメリカでもノートルダム大学が余り強いので「フットボール大学」と云はれていたようであった。

この映画上映について宣伝文に面白い文章が出ていたのでその全文を転記しよう。「ユニヴァサル超大作全発声運動映画、リュウ・エアーズ氏主演、ウィリアム・ベリウエル氏、ファーレン・マクダナルド氏助演、ラッセル・マック監督、ノートルダム大学フットボールチームの精鋭特別出演。

秋紺碧の風を衝いて廿五碼（25ヤード）、飛ぶ熱球を逐ふ18の健児があぐる真紅の意気、これは近代アメリカの唯一の誇り、精悍無比のフットボールの真髓を伝へたる傑作。その最強のチーム、ノートルダム大学精神に捧げられたる典型的の運動映画である全編火を吐く白熱の試合の連続、ラグ・シーンを持たない男性映画、時好し、カナダ軍の来襲によって来るべきスポーツダムの王者たるラグビーの興奮をまずこのアメリカン・フットボールに求めて時代に先駆せられよ!!!」

以上のような大変なものであった。この年の秋にはカナダからラグビーのチームが来日したのでそれによって映画の人気を得ようとしたのではなかろうか。又風を衝いて廿五碼とあるがこれもラグビーの25ヤードラインは重要なものであるのをそれを引用したのであろうが18の健児は意味不明である。おそらくこの宣伝文の作者が画面を見て18人位が目に入った為にこうなったのであろう。又、最後の“時代に先駆せられよ”とは未知のフットボールに対して新しいものを求める何かがある様である。

この映画は全編に有名なノートルダム大学の応援歌が流れ、ゲームのシーンも対ミシガン、対ノースウェ

スト、対アーミー等当時全盛を誇っていた中西部のビッグテンの大学との実際の試合を多分に映しており、そのスタジアムの大きさ、観衆の多いこと、またその応援のはなやかさには驚いたものであった。

この頃はまだプロは人気がなくフットボールは学生のもので、野球はプロのものという感覚がアメリカでもあったようで、日本で上映された一連のフットボール映画でも殆どが学生のものであった。

この「蹴球大学」はフットボール映画としては最も優れていたものの1つであった。フォーメーションは「ワン」、「ツウ」、「スリー」のQBの号令でバックがシフトをするシングルウィングバックでその点は現在のフットボールには無い面白味があるものであった。

ただ、この映画の製作にあたってU. S. C. のハワード・ジョーンズと並べてアメリカを代表する名監督ヌート・ラクニーを失ったことは実に残念なことであった。

日本にフットボールが移入されてからも昭11「オフサイド」、昭12「ローズボウル」、昭13「ビッグゲーム」等多くの映画が上映されたがそれらは又何れの機会かに記してみたいがこの「蹴球大学」は昭和10年の秋リーグ戦開始前夜祭に東京学生米式蹴球連盟の加盟校を有楽町の朝日新聞社講堂に集めた時にも上映されたもので私ももう1度見たいものであるとおもっている。

朝日新聞のコラムを見て思い出し書いてみた。

(はっとり しんご氏=戦後1948年～52年の日本協会理事長として活躍され、1954年、現審判協会の前身である審判部を設立された。

川崎市麻生区片平1-19-21 在住)

インストラクタ委員会

レポート

第4号に引き続き、インストラクタ委員各位からの今期にかける抱負を掲載いたします。(敬称略)

クリニックでは話下手な私がただ話をしているだけでは、分かってもらいにくいかと思っています。そこで、ビデオを見ながら話をするのがよいと考え、今秋テレビで放映されるアメリカのフットボールの試合を出来るだけ録画し、それを編集して、来年以降のクリニックに使っていきたいと思っています。はたして出来るでしょうか？

(内藤 伸広)

審判を始めて11年になり、与えられたスケジュールをただこなし、1年に2～3回数日間だけ楽しむスキーのように、あまり上達もせず春・秋のシーズンをこなしている自分へのカンフル剤として今年度インストラクタ委員にならしていただきました。ルール、メカニク共に勉強し、審判部向上のために頑張りたいと思います。

(田口 真行)

大学入学と同時にフットボールを始めて丸18年。その年数の割には審判経験年数は少ないのですが、実は若い頃は「フットボールはやるもの」と思い込んでいました。法政大学、シャークスを通じて実に楽しくフットボールをやりました。選手として、優勝経験はありませんが、自分が卒業した直後の年、甲子園ボウル優勝をこの目で見た時は最高でした。自分がフィールドでプレーしている様に興奮したものです。選手、コーチ、審判と関わり方は違いますが今迄の自分の中では最高の思い出です。これからも特別な事情がない限り、審判としてフットボールに関わっていくつもりです。

(木村 洋)

5ブロックの皆様からの推薦でインストラクタ委員会に混せていただく事になりました。審判歴は10+?年で昭和49年からですが、その間51～60年迄の間、関西で活動していました。途中病気等で3年程ブランクがありましたが、古川理事の熱意で又戻していただき、60年の夏に以前勤務していた会社を辞めて、東京へ帰って来る時にも、水田理事に推薦状を送っていただき、関東審判部へ難なく復帰することが出来ました。古川理事の恩に報いる為にもひと仕事してみたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

(三宅 隆)

私自身が8年以上の長期のブランクの後に再び審判部に参加させていただいて、最初に驚き戸惑ったのがプレーヤーのルール理解の深さ、ルール変更量、メカニクの進歩です。日本のアメリカンフットボールの技術が進歩し、プレーヤーのゲーム理解が進む中で、それに対応する審判技術の在り方は従来以上に大変なものになっていると感じます。復帰の時に感じた戸惑いを大切にして「分かり易いインストラクション」「ルールとメカニクの一体化」を目指して活動したいと思っています。

(東 俊)

審判員ならつねにルールブック携帯したい。そのルールブックと暇をみては付き合いたい。そうすれ

(4ページに続く)

ば、やがてルールブックと楽しく仲良く付き合えるようになったことに気づくだろう。恋人との付き合いのように。
(矢内 博)

インストラクタ委員も2期目となりました。知らない人から見れば、インストラクタというのだから、審判としてもかなりレベルが高いのだろうと言われます。

「フットボールの審判は、何級まであるのですか？」

「佐藤さんは、国際試合のできる免許があるの？」等と聞かれると答につまってしまう。早く資格制度が整備されてほしい、と思う今日このごろです。

(佐藤 浩行)

ルールに精通し、メカニクを深く理解し、余裕をもってオフィシエエティングを楽しめる・・・どうせやるならこうでなくてははいけません。

(藪内 直樹)

インストラクタ委員会は、理事会で教育・指導担当に所属しております。担当理事が、坂井氏から藪内氏に交替しました。これを機会に、インストラクタ委員会担当は藪内氏にお願いしました。

インストラクタ委員会発足当初より、発展的意見、資料を提出してくれる三樹氏が、病に遭遇し、聞っている。心痛ではありますが、訪上をもって皆様と共に応援します。

(千田 義彦)

◆理事会報告◆

(文責) 編集部

FOA・EAST・NEWS No4に続き、第38回の関東審判部理事会の内容の概要を報告します。議事録は公開資料ですので、詳細を知りたい方は各理事、または監事諸氏が所持している議事録をご参照下さい。

◆第38回理事会(1989年9月1日)

- ・アメリカンボウル報告
- ・長野クリニック報告(NEWS No4参照)
- ・9月クリニック打ち合せ
- 今年度ルール改正の重要項目「ファンプルのアウト・オブ・バウンズ」と「ブロックング規則の変更」の各クリニックごとの徹底。
- ・オペレーション・マニュアルについて
- ・韓国報告(NEWS 今号参照)

理事会より

秋季リーグ戦も日程を順調に消化、早くも11月に入り、木枯らしの便りも聞こえてくる季節になりました。理事会より以下の点について、お知らせするとともに、関東審判部員の一層のご協力をお願いいたします。

① 今後のボウルゲームについて

- 11月26日(日) パルサーボウル 横浜スタジアム
- 12月 3日(日) コカコーラボウル 東京ドーム
- 12月 6日(水) 東京スーパーボウル 東京ドーム
- 12月17日(日) 甲子園ボウル 阪神甲子園球場
- 12月23日(土) IVYボウル 横浜スタジアム
- 1月 3日(水) ライスボウル 国立競技場
- 1月 7日(日) トーソーボウル 神宮外苑野球場
- 1月14日(日) ジャパンボウル 横浜スタジアム

② オール・デンタル大会について

恒例のオール・デンタル大会が来春東京地区で開催されます。ウィークデイの開催となりますので、部員各位には是非日程を調整のうえ、ご協力願います。

- 3月14日(水) 日本歯科大 東小金井 2試合
東京歯科大 稲毛海岸 2試合
- 3月16日(金) 日本歯科大 東小金井 2試合
東京歯科大 稲毛海岸 2試合
- 3月18日(日) 日本歯科大 東小金井 2試合
(準決勝)

- 3月20日(火) 日本歯科大 東小金井 2試合
(決勝、3位決定戦)

③ 運営担当より

今秋は非常にタイトなスケジュールでリーグ戦を運営していますが、特にアサイメント表の自分の担当を見落とす例が頻繁に見受けられます。また思わぬ交通渋滞に巻き込まれ、試合開始時間に間に合わないケースがかなり目立ちます。もう一度アサイメント表を確認するとともに、車でグラウンドに向う場合は、充分時間的余裕をもって出発するようにしてください。

FOA・EAST・NEWS No5 日本アメリカンフットボール審判協会
関東審判部・機関紙 発行:1989年11月16日
発行責任者:喜入 博 (044-855-XXXX)
発行 編集:FOA・EASTニュース編集部
森 賢 (044-855-XXXX)